161
149

大戸直胤編輯

藝備史談

發行　積善館支店

特46
30

例言

一本書ハ小學校教則ノ主旨ニ基キ高等小學校生徒用ニ供スル爲メ編輯シタルモノナリ

一本書ハ上下ノ二編ト別チタル所以ハ先ヅ總說ヲ授ケタル後安藝國内ニ在テハ上編ヨリ始メ備後地方ニ在テハ下編ヨリ始メテ上編ニ立戻リ教授スルノ便ヲ計リタレバナリ而メ結尾ノ如キハ固ヨリ上下兩編ヲ授ケタルノ後ニアラザレハ教授ス可カ

ラサルモノトス

一本書ニ說話ヲ挿入シタルハ編者ガ殊ニ意ヲ用井タル所ニシテ他ニ其類ヲ見ザルモノナリ

一本書ハ縣下各小學校用ニ適センヿヲ慮カリ藝國ハ廣島市ヲ以テ始トナシ備州ハ福山ヲ以テ始トナシテ順次各郡ニ及スノ順序ヲ立テタリ

一本書ハ予ガ編輯セル藝備地誌ト併用セシムルノ目的ナリ故ニ其順序方法亦相同ジ

一本書ヲ講話スルニ當リテ最モ注意ヲ要ス

ルハ其人ノ地位ニ由リ或ハ至尊ニ對スルノ崇敬語或ハ卿ト云ヒ或ハ公ト云ヒ君ト云ヒ先生ト云フガ如キハ終始同一轍ナランコト是ナリ

一本書ハ文學ノ沿革ヨリ外政治及風俗ノ變遷等ヲ載セズシテ今代ニ關スル一項ヲ設ケタリ是レ政治風俗ノ如キ無昧無興ノモノニ換フルニ耳ニ入リ易ク且ツ記臆シ易キ事項ヲ以テシタレバ德性感養上大ニ利スル所アラン但政治及風俗ノ變遷ハ教授者ノ餘力ヲ以テ口授說示アランヿヲ望ム

ナリ

聖代明治二十七年十一月　編者識

藝備史談　上

大戸直胤　編輯

總說

第一　藝備兩國ノ沿革

安藝國ハ古阿岐ト稱セシガ、後安藝ト改メケリ、備後國ハ古吉備ト稱セシガ、第十三代成務天皇ノ御代ニ至リ、吉備ヲ割キテ、備前、備中、備後、ノ三國トセラレタリキ、今ヲ距ル千五百五十餘年前、第一代神武天皇、日向高千穗ノ宮ヲ發、幸シ、諸國ヲ經テ、阿岐ノ多祁理ノ宮（府中ノ村ニアリ）ニ坐セシコト七年、亦其所ヨリ遷リ上リテ、吉備ノ高嶋（備中神島ニアリ）ニ座シ給ヘリシコト八年、是兵ヲ率井テ、東征シ給ヒシ時ノ事ナリ、

第二　廣島縣ノ沿革

明治四年七月、廢藩置縣ノ詔出ヅルヤ、安藝一圓、及備後ノ内、御調、世羅、三次、三谿、奴可、三上、惠蘇、甲奴、ノ八郡ヲ以テ、廣島縣トシ、備後ノ内、深津、沼隈、安那、品治、芦田、神石、ノ六郡ヲ以テ、福山縣トセシガ、此年十一月、深津縣ト改メ、同五年六月、小田縣(備中國)ニ合シ、同八年十二月、又岡山縣(備前國)ニ合シ、同九年四月、更ニ廣島縣ニ併シ、廣島ニ縣廳ヲ置キ、藝備兩國ヲ以テ、管轄トスルニ至レリ、

廣島市

廣島市ノ沿革

廣島ハ、上古入海ニシテ、五箇莊ト云ヒ、微々タル一漁村ナリシガ、毛利輝元(天正十七年)城ヲ茲ニ築キ、廣島ト名ケタリキ、其祖父元就吉田(高田郡)猿掛城ヨリ起リテ、山陽山陰十三州ニ太守トナレリ、當時足利ノ末ニテ、君臣ノ義廢リ、主從其肉ヲ爭フ時ナリシニ、元就獨天性忠良ニシテ、敬神尊王ノ意敦ク、智仁勇ノ三德ヲ兼子、以テ禍亂ヲ平定セリキ、輝元祖父ノ餘德ヲ稟ケ八州ヲ領シテ此地ヲトシ、其居ヲ定メ城ヲ茲ニ築キケリ、

慶長五年、毛利氏ハ長門ニ移リ、福島正則ハ藝備兩國ヲ領シテ、此城ニ居リシコト二十年ノ後、(元和五年)淺野長晟(ナガアキラ)安

藝及備後ノ北部ヲ領シテ、此ニ治セリ、十一代ヲ經テ長勳ニ至リ、明治維新ノ際城ヲ朝廷ニ致シケリ、淺野氏ノ治所トナリシハ、二百五十三年間ナリキ、今ヤ第五師團廣島營所トナレリ、實ニ關西ノ大都會ノ地タリ、

明治十八年八月　允文允武ナル明治天皇陛下此地ニ行幸アラセラレ、四民親ク　龍顏ヲ拜觀シ奉ルノ榮ヲ得タリキ、

同二十三年七月、有志者相謀リテ、廣島市開基三百年祭ヲ神宮廣島本部ニ於テ執行シタリキ、

同廿七年、征清ノ事アリシヨリ、九月十三日ヲ以テ大本營ヲ此地ニ進メラレ、畏コクモ　大元帥陛下御出征アラセラレ、驛ヲ此ニ駐メ給ヘルヲ以テ、四民恭シク奉迎

シテ、聖德ノ萬歲ヲ祝セサルハナカリケリ、

同二十七年九月二十二日勅シテ十月十五日ヲ以テ臨時帝國議會ヲ廣島ニ召集シ七日ヲ以テ會期トスベキ旨發セラレタリ、

毛利輝元

輝元ハ、元就ノ嫡孫ナリ、其親族吉川元春、及小早川隆景ノ二人之ヲ輔翼シ、諸城ヲ下シテ、父ノ大業ヲ襲ガシメケリ、文祿二年、輝元吉田城ヨリ移リテ、廣島ニ治ス、慶長五年、石田三成、兵ヲ關ケ原（美濃）ニ擧ケテ、德川家康ニ敵スルヤ、輝元ハ三成ヲ援ケシヲ以テ、其封土八ケ國ヲ削ラレ、周防長門ノ兩國ヲ領セシメキ、廣島城ノ福島氏ノ手ニ落チシハ、蓋シ之レガ爲メナリ、

福島正則

正則ハ、慶長五年關ケ原ニ於テ、家康ヲ援ケテ戰功アリシカバ、藝備兩國ニ封セラレケリ、茲ニ於テ已レノ軍功ニ誇リ、慢リニ城ヲ築キ、又生殺ノ權ヲ擅ニセルヲ以テ德川秀忠之ヲ信濃ニ放逐シケリ、福島氏ノ廣島城ニ居シコト二十年ニシテ、淺野氏之レニ代リキ、

淺野長政

淺野長政、性忠純秀吉ノ爲メニ、屢奇計ヲ出シテ戰功アリシカバ、豐臣氏五奉行ノ第一ニ班ス、次子長晟、備中二萬石ヲ食ム、尋テ但馬守ニ任ゼラレキ、元和七年、廣島城ヲ賜ヒテ徙リ居ラシメタリ、時ニ藝備四十二萬六千石ヲ食ム、二子アリ長治光晟ト云フ、光晟家康ノ外孫ナル

ヲ以テ、立テ、嗣ト爲シ安藝守ニ任ス、長子綱晟封ヲ襲ギケリ、其八世ノ孫ヲ茂長ト曰フ、安藝守ニ任セラル、其義子長勳封ヲ襲キケリ、是レ今ノ正二位侯ナリ、

學舍

修道館ハ、天明元年淺野氏ノ創立ニカ、リケルガ、明治ノ初年廢校トナレリ、仝十一年、淺野學校ヲ興シテ其後ヲ繼キ、亦子弟ヲ教育セシガ、十五年修道校ト改メ、十九年遂ニ廢校トナリヌ、又今ノ私立修道校ハ、其名ヲ繼ケルモノナリ、

儒家

阪井虎山ハ、貧家ニ生レ幼ニシテ才智アリ、賤業ヲナシテ父ニ奉シ、傍ラ藩校ニ入リテ學ヲ受ケ、業大ニ成ル、文

政八年藩校ノ教授トナリ、名天下ニ聞エケリ、嘉永三年病ミテ歿ス、年五十三、其功績ヲ不朽ニ傳ントシテ、一大碑ヲ饒津公園内ニ建テタリ、

木原桑宅ハ、天性篤實殊ニ孝心深カリキ、幼ニシテ阪井虎山ノ門ニ入リ、學業大ニ進ミタリシカバ、淺野候徵シテ家臣トナシケリ、明治十四年歿ス、享年六十八、門人等相謀リテ、碑石ヲ公園内ニ建テタリ、

名醫

吉益東洞ハ、幼ヨリ武藝ヲ好ミ、兵學ヲ修メシガ、偶時勢ニ感シテ專ラ力ヲ醫術ニ用ヰ、其蘊奥ヲ極メテ其名世ニ高ク、當時天下第一ト稱セラレタリキ、安永二年病ヲ以テ歿ス、享年七十二、

偉人

辻維岳ハ、父ヲ維祺ト云ヒ、文政六年七月四日、廣島ニ生レ、弘化三年四月、家ヲ嗣キ秩祿千二百石ヲ受ケ、淺野家側頭役トナリ、後廣島藩先鋒隊長及騎馬隊長トナリ、文久二年、執政職兼國事係トナレリ、慶應三年十二月、朝庭ヨリ徵士參與ヲ命セラレ、尋テ内國事務局判事大津縣知事ヲ歷テ宮内省及元老院ノ諸官ヲ命セラレ、從四位ヲ進メ勳三等ニ叙シ、特ニ華族ニ列セラレ男爵ヲ授ケラル、明治十七年一月三日、病ヲ以テ卒セントスルニ臨ミ、特ニ位一級ヲ進メ正四位ニ叙セラレキ世人呼ヒテ廣島偉人ト云ヘリ、

縣社

饒津神社ハ、淺野氏ノ祖長政ノ靈ヲ祀レル所ニシテ、今ハ縣社トナレリ、其境内ヲ公園トナセリ、其風景四時共ニ宜キヲ以テ、杖ヲ曳クモノ常ニ絶エズ、

寺院

國泰寺ハ、僧惠瓊ノ開基ニ係リ、淺野氏代々ノ菩提所ナリ、此寺ニハ赤穗四十七義士ノ木像ヲ藏セリ、

佐伯郡

舊跡

廿日市ハ、豐臣秀吉、關戸ヨリ上陸セラレシ地ナリキ、櫻尾山ハ、佐伯氏ノ居城ナリシガ、大内ノ爲ニ亡ボサレ、後又毛利氏此城ヲ攻メ、大内氏ヲ降シタリキ、嚴島ハ、毛利氏陶晴賢ヲ誅セシ地ナリ、抑毛利氏ハ、世々

安藝吉田ノ城主タリシガ、元就ニ至リ尼子氏ニ屬シ、後大内義隆ニ從ヘリ、此時大内氏ノ家人陶晴賢、其主ヲ殺シテ國ヲ奪ヒタリシカバ、元就故主ノ言ヲ受ケ、乃勅許ヲ得テ、城ヲ此島ニ築キテ敵ヲ誘ヒケレバ、晴賢三萬ノ步騎ト千餘ノ軍艦トヲ率ヰテ來リ寇ス、元就風雨ノ夜ニ乘ジ、手兵三千餘ヲ以テ難ナク晴賢ヲ此島中ニ誅シケリ、是ヨリ毛利氏ノ名聲中國ニ著レニケリ、

樽鼻ハ、神功皇后征韓ノ御時、此地ニ在リテ樽ヲ傾ケテ、軍士ヲ犒ヒ給ヘリシ地ナリ、

四十八阪ハ、慶應元年長州征伐ノ時、幕兵ト激戰シ幕兵ノ將榊原氏ノ敗北セシ地ナリ、

神社

嚴島神社ハ、推古天皇(千三百年前)ノ御宇、佐伯氏ノ創建ニ係リケルモノニシテ、鎮坐ノ神ハ市杵島姫命ナリ、平清盛安藝守タリシ時、此神ヲ崇敬シテ、社殿ノ規摸ヲ壯宏ニナシタリキ、御山ニ金剛峰寺アリ、傳ヘ言フ僧空海ノ開基ナリシト、

沼田郡

舊　跡

武田山ハ、一ニ銀山ト稱ス、祇園村ノ西北本山村ニアリ、本國ノ守護武田信宗ノ據城ナリシガ、十餘年ヲ經テ光和氏ノ時ニ至リ毛利元就ノ爲メニ亡ボサレケリ、(三百六十餘年前)

阿武山ハ、八木村ニ在リ、東南ニ香川城ト名ヅクル古城趾アリ、鎌倉權五郎景政ノ裔、香川光景ノ創築ニ係リケ

ルト云ヘリ、

(說話)天文中、阿武山ニ蟒蛇アリ、出テ、人畜ヲ食フ、山ハ城ト相接セリ、光景之ヲ除ク者ヲ募ル、香川勝雄ト云ヘルモノ年十八力十五人ニ敵ス乃其募ニ應ゼリ光景義元ノ短刀ヲ與ヘケレバ、勝雄身ニ甲冑ヲ着ケ、大刀ヲ佩ビ、曉天ヨリ一騎ニテ山ニ入ル馬震栗シテ進マズ、勝雄馬ヲ捨テ嵒ヲ踰エ蘿ヲ攀ヂ、頂上ニ至レバ、果シテ巨蛇老木ニ憑リ眠レルヲ見テ、思ヘラク鱗虫ト雖モ、一言ヲ懸ケズシテ之ヲ斬殺スルハ、寢首ヲ取ルニ等シト、因テ大ニ呼ヒテ曰ク、汝善ク聽ケ深山大澤ハ龍蛇ノ住ム處、家屋ノ近邊ハ百姓ノ安ズル所ナリ、然ルニ汝其所ヲ離レ邑里ニ出テ、暴害ヲ人畜

ニ加フルハ大罪ナリ、速ニ己カ巣窟ニ歸ラバ死ヲ宥サン、若シ去ラザレバ、只一揮ニ齏粉セント、巨蛇忽チ兩眼ヲ開キ將サニ來リ呑マントス、勝雄刀ヲ拔キテ之ヲ斬ル其首空ニ騰ルコト數丈、遂ニ頭上ニ落ツ、勝雄又刀ヲ以テ横ニナギテ、之ヲ地上ニ打チ墮ス、其時蛇毒兩眼ニ沁入シテ一目盲トナリシガ、日ヲ歴テ平復シケリ、永錄十二年、美作國高田ノ戰ニ討死シケリトヅ、

高宮郡

舊　跡

高松城ハ、熊谷信直ノ居城ニシテ、世々毛利氏ニ屬シタリシ舊跡ナリ、

寺　院

福王寺ハ、僧空海ノ開基ニシテ、天長五年嵯峨天皇ノ建立シ給ヘリシガ、後武田伊豆守之ヲ再興シタリケリ、

山縣郡

舊　跡

火山ハ新庄ニ在リ、戰國ノ時吉川氏ノ據城ナリシガ、其麓ニ元春ノ墳墓今猶存セリ、元春ハ元就ノ次子ニシテ、吉川興經ノ家ヲ嗣ギ、小早川隆景ト共ニ毛利輝元ヲ補佐シタリケリ、

加計ハ、加計某ノ開キシ處ニシテ今ヲ去ルコト五百六十餘年前ノ舊蹟ナリ、

高田郡

吉田ノ沿革

吉田ハ、建武年間毛利時親、此地ノ領主タリシガ、九代ヲ經テ興元ニ至リ、其弟元就猿掛城主丹治比氏ノ家ヲ嗣キシガ、興元ノ子幸松夭死シケレバ、元就遂ニ毛利ノ後ヲ襲ギ、年ヲ追ヒテ强大トナリ、遂ニ近旁諸州ヲ屬セシメ、吉田ヲ府城トシタリケリ、當時此地稍繁華ヲ極メシガ、幾多ノ星霜ヲ經ルニ隨ヒテ、荒廢ニ屬シ、今ハ山間ノ一聚落トナレリ、郡山ノ山腹ニ元就及元隆ノ墳墓アリ、

(說話)元就幼キ時、從者ニ抱カレテ嚴島ノ社ニ詣デ、歸途從者ニ問ヒテ曰、汝等何事ヲ祈リシゾト、從者對テ曰ク、君ガ安藝國ノ主トナリ給ハンコトヲ祈レリト、元就歎シテ曰ク、何ヲ以テ天下ノ主トナランコトヲ

祈ラザリシ、大ヲ願ヒテ小コソ叶フベケレト、長シテ能ク兵ヲ用ウ、然レ𪜈元ヨリ小身ナレバ、初メ尼子氏(伯耆出雲石見ノ國主)ニ屬シ、後大内氏(長門周防ノ國主)ノ幕下ニ從ヒシカバ、漸ク武功ヲ積ミテ近傍ノ諸州ヲ併シタリキ、既ニシテ大内氏ノ臣陶晴賢、其主義隆ヲ殺シテ其國ヲ奪ヘリ、義隆死ニ臨ミテ、書ヲ元就ニ遺シテ討賊ノ事ヲ托セリ、元就乃其遺托ニ由リ、晴賢ヲ嚴島ニ襲殺シタリキ、已ニシテ大内氏ノ舊地ヲ領シ、又尼子氏ト戰ヒテ其地ヲ併シ、遂ニ山陽過半ヲ領有スルニ至タリキ、元龜二年病ミテ歿ス、

安藝郡

舊　跡

府中村ニ垢宮アリ、今多家神社ト稱ス、古昔神武天皇東征ノ御時、七年間茲ニ駐リ給ヘリシ舊趾ナリ、

穩渡ノ瀨戸ハ、昔時一地頸タリシガ、平清盛本國ノ守タリシ時鑿開シテ舟路ヲ通セリト言ヒ傳ヘリ、海中ニ清盛ノ石碑アリ、蓋其功績ヲ世ニ傳ンガ爲ナリ、

至　孝

加藤十千ハ、海田市ニ生レ幼ニシテ學ヲ好ミ、長シテ藩侯ニ仕ヘ、祿四十石ヲ食ミケリ天性温柔能ク父母ニ事ヘ師ヲ敬ヒ以テ人ヲ率井タリキ、石碑ハ今馬背山ニアリ、

吳鎭守府

吳ハ舊ト、一漁村ノ地ニ過ギザリシガ、明治二十一年海軍鎭守府所在ノ地トナリシヨリ、市街ノ繁華年ヲ追ヒテ盛ニ趣ケリ、明治廿四年四月　今上天皇陛下、鎭守府ニ行幸アラセラレ給ヒキ、

兵學校

江田島ハ明治十一年八月、海軍兵學校ヲ置カレシヨリ、近時大ニ賑ヘリ、明治二十四年四月、今上天皇陛下兵學校ニ行幸アラセラレ給ヒキ、

賀茂郡

忠孝石

竹原磯宮菅廟ノ前ニ大石アリ、勤王ノ士唐崎常陸介宋文天祥ノ書ヲ摸シテ忠孝ノ二大字ヲ刻セシメタリキ、世之ヲ忠孝石ト云フナリ、

神社

小倉神社ハ、原村ニアリ相傳フ源頼政戰死ノ後、菖蒲前此地ニ來リ匿レ居リシガ、元久元年、八月二十一日、歿シヌト、

縣社和賀神社ハ、木村城趾ノ下ニアリテ、小早川氏ヲ祀レル一大社ナリ、蓋小早川氏世々此城主タリシガ、隆景ニ至リ豐田高山城ニ移リタリキ、

寺院

國分寺ハ、吉土實村ニアリ、今ハ僅カニ一小屋ノミ殘レリ、按ズルニ聖武天皇、天平九年三月詔シテ國毎ニ一寺院ヲ造ラシメ給ヘリキ、是其遺跡ナリ、

至孝

風早村ニ孝子アリ、名ハ審麻呂ト云ヒキ、天長中勅シテ三階ニ叙シ戸田ノ租ヲ免シ給ヒキ、仝村八幡宮境内ニ一小祠ヲ建テ其靈ヲ祀レリ、

勤王家

唐崎常陸介ハ、赤齋ト號ス、磯宮祠宮信通ノ子ナリ、幼ニシテ父ヲ喪ヒ、其職ヲ襲ゲリ、年十五ニシテ伊勢ニ遊ビシコト七年學成リテ歸郷シ、生徒ヲ教授ス、門人數百人ニ至リヌ、常ニ國事ヲ憂ヒテ勤王ノ志深シ、高山正之ト情好厚カリシガ、寛政八年十一月歿ス、享年六十、

儒家

賴春水ハ、竹原ノ人、通稱ハ彌太郎春水ハ其號ナリ、幼時學ヲ好ミ京都ニ遊學シ、業大ニ成レリ、藩侯徵シテ儒員

トナス、文學ニ政治ニ大ニ力ヲ盡シ、其功績少ナカラザリシ、人トナリ端正嚴謹妻子ト雖モ、其情容アリシヲ見サリシトゾ、

(說話)春水歿スルニ先ダツ數年、一書ヲ緘糊シ門生ニ付シテ曰ク、我ガ歿スルニ及ンテ後之ヲ披ケト、歿シヌル日之ヲ披ケバ則悉ク後事ヲ處分シテ曲盡セザルハナシ、曰ク雙刀一槍ハ是家ノ舊物ナリ、藏書ハ處士タリシヨリ辨置セル所ニシテ我ガ膏血ナリ、子孫善ク之ヲ愛護セヨ、他亦何ヲカ恡マン、廉潔ノ二字ハ是我ガ家ノ精神ナリ、我ガ歿スルノ後唯吾親戚、或ハ汚名ヲ得テ以テ祖德ヲ累サンコトヲ慮カル、他ハ復タ何ヲカ憂ヘント、將ニ歿セントスルニ臨ミ、人ヲシテ書セシム、曰ク某物ヲ借レリ當ニ返スベシ、某物ヲ買ヘリ當ニ直ヲ償フベシト、其清介ニシテ縝密ナル斯ノ如シ、其他美事善行多ケレ𪜈茲ニ略ス、

賴山陽名ハ襄、通稱ハ久太郎ト云ヒテ、春水ノ子ナリ、幼ヨリ學ヲ好メリ、長シテ四方ニ遊學シ、業大ニ進ミケレバ、其名天下ニ轟キヌ、日本外史日本政記等ヲ著シ王室ノ尊フベキヲ論ジ大權ノ武門ニ移リシヲ歎キシカバ、天下ノ士氣爲メニ振起シ、遂ニ尊王愛國ノ風ヲ養成スルニ至レリ、天保三年歿シヌ時ニ年五十又三、今上天皇陛下、其功績ヲ賞シ給ヒテ、贈位ノ勅ヲ下シ給ヒキ、春風杏坪聿庵皆賴氏ノ一族ニシテ皆詩文書ニ長シタリキ、

豐田郡

舊　跡

高山城趾ハ、船木本郷ノ諸村ニ跨レリ、正平年間小早川隆景賀茂郡木村城ヨリ移リテ、此地ノ城主タリシガ、晩年ニ至リ秀秋ヲシテ家ヲ繼カシメテ、自ラ三原城ニ老シタリキ、

備後國

深津郡

福山城ノ沿革

福山城ハ、元和五年本國ノ領主、水野日向守勝成、神邊ヨリ移リテ城ヲ此地ニ築造シタリキ、爾後年ヲ追ヒテ繁盛ノ地トナレリ、元祿十三年松平忠雅（四代）此城ニ治シ寶永七年阿部正邦之レニ代リテ領有セリ、九代ヲ經テ正桓ニ至リシガ、明治維新ノ改革ニ遇ヒテ、此城ヲ奉還セリ、阿部氏ノ領有タリシコト、凡百六十一年ナリキ、現時五重ノ天主閣ヲ存シ階樂公園トセリ、

縣社

阿部神社ハ、阿部氏ノ祖大彦命ヲ奉祀セリ、此社ハ文化九年、阿部正精之ヲ創建セリトゾ、今縣社トナレリ、

誠之館ノ沿革

誠之館ハ、安政二年舊藩主阿部正弘ノ創設ニ係リテ、藩士ノ子弟ヲ養成スル爲メ文武ノ兩課ヲ置ケリ、當時水戸藩主德川齊昭誠之館ト號ケタリキ、其後星移リ物變リ遂ニ廣島縣師範學校トナリシガ、廢校後有志者據金ヲ投シテ中學校ヲ興シ尋常中學福山誠之館ト稱シタリシガ、尋テ縣立福山尋常中學校トナレリ、

儒家

江木鰐水ハ、賴山陽ノ門人ニシテ、詩文ヲ善クシ、又兵學

ニ長シケリ、阿部侯ニ仕ヘテ藩士ノ子弟ヲ教授シタリキ、

門田朴齋ハ、菅茶山及賴山陽ニ就キテ學タリシガ、業大ニ進ミ、詩最モ巧ミナリシヲ以テ、阿部侯ニ仕ヘテ儒員トナリケリ、明治六年歿ス、

沼隈郡

鞆ノ由來

鞆ハ、古渡守ト云ヒシガ、神功皇后征韓ノ御時、驛ヲ此地ニ駐メ給ヒ、航路ノ無事ヲ祈リ、渡守神靈ヲ祀リテ、鞆ヲ納メ給ヘリシヨリ、此名ノ初トハナリニケリ、

舊跡

田尻水呑兩村ノ東部ヲ宮崎ト云ヘリ、傳ヘ云フ此地ハ

神武天皇東征ノ御時、驛ヲ駐メ給ヘリシ宮趾ナリト、今武宮ト稱スルハ、即天皇ヲ祀レルナリ、

鞆ハ、西國探題足利直冬ノ住ミシ所アリ、又將軍義昭毛利輝元ニ倚ラントシテ、此地ニ來リシ所アリキ、福島氏ノ時其臣大崎玄蕃ヲシテ此地ニ守トナシ、城ヲ築カシメントシテ止ミヌ、

神社

沼前神社ハ、國幣小社トナレリ、明治ノ初年祇園社ヲ改築シ、渡守ノ神靈ヲモ其傍ノ小社ニ奉祀セリ、神功皇后ノ納メ給ヘリシ鞆ハ、其所在ヲ詳カニセズ、今ハ其摸疑ノ物ヲ納メケリ、

御調郡

尾道ノ沿革

尾道ハ、舊名玉ノ浦ト云ヘリ、其後方ノ千光寺ハ、凡千百餘年前ノ創立ナリシガ、多田滿仲之ヲ再建シケルモノナリ、寺内ニ大石アリ、烏帽岩ト呼ブ、傳ヘ云フ古昔岩上ニ一大寶珠アリ、其光輝常ニ海面ヲ照セシニ由リテ此名アリシト、

天平八年六月、朝庭使ヲ新羅國（今朝鮮）ニ遣ハシケル時、使人等此地ノ景色ヲ稱シテ、吟詠セシトナン、

天慶年間、藤原純友ノ伊豫ニ反スルヤ、尾道六郎ト云フ人、之レニ應援シタリキ、

天正十二年、杉原元經城ヲ千光寺山ニ築キテ領セシガ、德川幕府ノ時福島正則此地ニ封セラレタリキ、尋テ淺

野氏ノ有ニ歸シケリ、

儒　家

宇都宮龍山ハ、幼ヨリ文學ヲ嗜ミ、長スルニ及ビテ業大ニ成リ詩ハ最モ長所ナリ、晩年維ヲ此地ニ張リ、子弟ヲ教授シケレバ、朝庭其功ヲ賞セラレタリキ、明治十九年八月歿ス、後有志者相謀リテ、一大碑石ヲ淨土寺内ニ建テケリ、

神　社

長江ノ天神社ハ、延喜元年正月、菅公左遷ノ時、狩衣ノ袖ヲ裂キ、自ラ像ヲ寫シテ留メ去ラレタリシ地ナレバ、祠ヲ建テヽ其靈ヲ祀レルナリ、

舊　跡

糸崎ニ長井ノ水ノ古跡アリ、神功皇后三韓（今ノ朝鮮國）ヲ征伐シ給ヘリシ時、御船ヲ茲ニ寄セラレテ、水ヲ汲マセ給ヘリシ所ナリ、

三原城ハ天正年間小早川隆景、賀茂郡木村城ヨリ移リ住セシ地ニシテ、慶長五年福嶋正之ヲシテ城主タラシメ、淺野氏ノ時老臣淺野忠吉ヲシテ居住セシメタリキ、十二代忠英ニ至リテ明治維新ノ改革ニ際シ遂ニ城ヲ奉還シケリ、

世羅郡

舊　跡

甲山ニ今高野山アリ今時廢頽セルモ僧空海開基ノ寺ナリキ、

甲山ニ一城趾アリ傳言フ毛利元輔居城セシ所ナリト、

蘆田郡

府中市村ノ沿革

府中市村(一ニ古府ト云フ)ハ、昔時蘆田磧ニシテ、市街ハ今ノ國府村(備後國府ノアリシ地)ニ在リシガ、水野氏ノ時、人家ヲ移シテ今ノ地ニ市街ヲナシケリ、爾後幾多ノ星霜ヲ徑テ、大ニ繁華ノ地トナリ、現今ノ戸數千餘ニ及ヘリ、

儒家

五弓雪窓ハ、通稱ヲ豊太郎ト云ヘリ、雪窓ハ其號ナリ、(家世々神職タリ)幼ヨリ學ヲ嗜ミ、專ラ志ヲ徑史ニ止メテ大ニ研究セシガ、憤然笈ヲ負ヒテ大阪ニ遊ビ、後藤松陰ノ門ニ入リ、後又江戸ニ遊ビテ、學業大ニ進歩セシカバ

更ニ伊勢ノ大儒齋藤拙堂ノ門ニ入リ、力ヲ文章ニ用井、大ニ得ル所アリテ鄉里ニ歸リ、子弟ヲ教授セシガ、福山侯召シテ藩校ノ生徒ヲ教授セシメタリキ、明治七年太政官修史局御用掛トナリ、尋テ三等協修トナリケリ、後老母ノ病ニヨリテ職ヲ辭シ、歸省シテ家ニ在リ、子弟ヲ教訓シテ晝夜倦マズ、明治十九年病ヲ以テ歿ス、年六十三、其人トナリ温厚端正ニシテ、儼然守ル所アリ、著書身ニ等シカリシ、

安那郡

神邊ノ沿革

神邊ハ、建武年中、備後ノ守護淺山氏居城ノ地ナリシガ、後山名氏在住シ、之ヲ家老杉原氏ニ讓リケリ、其後福嶋

正則ノ家老福山丹波之ヲ守ケルガ、水野氏備後ノ東南部ヲ領シ、治所ヲ此ニトシ、三年ヲ徑テ福山ニ移リタリキ、其城趾ヲ黄葉山ト云フナリ、

儒家

菅茶山ハ神邊ノ人、幼ヨリ學ヲ好ミテ京師ニ遊學シ、業大ニ進ミ詩ハ最モ長所ナリキ、鄕里ニ歸リテ子弟ヲ教育シケリ、山陽モ其門人ナリ、茶山ノ名世ニ高ク聞エシカバ、遂ニ福山侯ニ徵サレ、俸五口ヲ食メリ、門生益盛ニ趣キケレバ、寛政四年、官ニ請フテ鄕校トナシタリキ、

品治郡

神社

宮内村ニ吉備津神社アリ、備後一ノ宮ト稱ス、第三十三

代推古天皇ノ朝、有鬼氏始メテ社ヲ建設シテ、吉備津彦命ヲ祀リタリキ、元弘二年櫻山茲俊、此社ニ據リテ勤王ノ兵ヲ起シ、ガ、事ノ成ラザリシヲ憾ミテ、社ヲ燒キテ自殺シケリ、後水野氏之ヲ再建シタリキ、今ハ縣社トナレリ、

元弘元年、八月二十七日、櫻山茲俊義兵ヲ擧ケテ、遙カニ楠正成ニ應援シケルガ、十月二十三日、茲俊誤リテ正成燒死シ士衆潰散スト聞キ、嘆シテ曰ク事去リヌト、乃吉備津神社ニ詣リ、妻ヲ刺シ殺シ、廟ニ火シ自刄シテ殁ス、節ニ殉ヒシモノ二十四人、横屍相枕メリトゾ、明治十五年、前千田廣島縣知事ヲ始メ、郡長以下有志者會議シテ新タニ一社ヲ櫻山ニ造營セントセシカバ、官其請ヲ許

シ、且正四位ヲ贈リ、更ニ一百餘金ヲ下賜シ、以テ土木ノ費ヲ助ケラレタリキ、(社ハ吉備津神社ト接シテ南方ノ小丘ニアリ櫻山神社ト云フ)

(說話)宮内村中興寺ニ、藏セル玆俊公ノ木像アリ、其形髮ヲ削リ僧衣ヲ着セル坐像ニシテ、高サ一尺二寸巾一尺八寸、大功院櫻山入道玆俊大居士尊靈ト記セリ彫刻ハ長享二年九月トアリ、實ニ第百二代後土御門天皇ノ御宇ニシテ、明治二十七年ヲ距ル、四百八年前ノ遺物ナリ、

此寺ハ、第五十二代嵯峨天皇ノ御宇、山名忠興ト云ヒシ人、當地方ノ領主ナリシカバ、當山ヲ開院シ、己ノ名ヲ以テ常光山忠興寺ト稱セシガ、幾多ノ星霜ヲ經テ終ニ忠興寺ノ忠ノ字ヲ中ト書キ誤リシナリ、

綱引公

櫻山神社ノ東麓、一帶ノ長流アリ、神谷(カヤ)川ト云フ、河畔ニ碑アリ、題シテ孝子綱引公金村ノ碑ト云フ、福山儒臣衣川氏ノ文アルモ、靑苔面ヲ蔽フテ、字跡容易ニ讀ム可カラズ、然レモ公ノ德行、千古ニ亘リテ尙凛々生氣アリ、村民公ノ德ヲ慕フノ餘リ、村名ヲ改メテ綱引村トシタリ、其碑ノ近隣ナル家屋ノ瓦ニハ、悉ク至孝堂ト彫ミタル文字アリ、是亦碑文ト共ニ、其德ヲ永遠ニ傳ヘント慮リタルモノナラン、

神石郡

舊　跡

小畑ハ、維新前奥平某ノ所領タリシガ、今ハ只一小邑タ

ルノミ、

甲奴郡

舊　跡

田房ノ川平山ハ、戰國ノ時、田總某ノ居城ナリシヲ以テ、田房ノ名、蓋之レニ依リシナラン、

奴可郡

舊　跡

西城ハ、宮某居城ノ地、東城ハ長尾某ノ居城タリシ舊趾ナリ、美古登山ノ麓ニ、熊野小社アリ、伊弉册尊ヲ祀レリ、傳云フ此山ニハ、伊弉册尊ヲ葬リシ所ナリト、恐ラクハ誤リ傳ヘタルナラン、

三上郡

舊　跡

篠津原ニハ今石疊ノ存セルアリ蓋戰國ノ時宮尼子兩氏ノ軍激戰セシ舊跡ナラン、

三次郡

三次町ノ沿革

三次ハ三吉隆信ト云ヒシ人、城ヲ比叡尾山ニ築キシヨリ、稍市邑ノ形ヲナシヽガ、六十餘ノ年福島正則ノ老臣尾關石見ナルモノ、城ヲ尾關山ニ搆ヘタリシ時、市邑增加シタリキ、淺野長治此地ニ住シテヨリ、數代ノ後、淺野氏之ヲ領スルニ及ンテ、市街漸ク繁盛ニ趣キケリ、

三次奉行

賴杏坪ハ、竹原ノ人、春水ニハ弟タリ、山陽ニハ叔父タリ、

才學兼備ナリシヲ以テ、淺野侯徵シテ三次奉行ノ職ヲ命セラル、杏坪此地ニ趣クヤ、務メテ荒蕪ノ地ヲ拓キ、又民ヲ愛撫シ、孝子義僕ノアルヲ聞クヤ、必ス之ヲ旌表セザルハナカリキ、

惠蘇郡

舊　跡

高野山ハ、後鳥羽院隱岐國ニ遷幸マシマシ、時、功德寺ニ駐マリ給ヘリシ跡ナリ、

三谿郡

舊　跡

吉舍ハ、承久ノ亂ニ、後鳥羽院ノ、驛ヲ駐メ給ヘリシ地ナリ、

富士山ハ、備後小富士ト云ヒテ、後醍醐天皇西遷ノ御時、詠歌シ給ヘリシヲ以テ、其名高カリケリ、

結尾

文學ノ沿革

德川家康ノ、天下ヲ治ムルヤ、文學ハ治世ノ要具ナルヲ知リ、大ニ之ヲ振起スルノ志アリ、大儒ヲ招キテ書ヲ講セシメシガ爾來ノ將軍皆之レニ效ヒケリ、五代將軍綱吉ニ至リ、天下ニ奬勵シテ、大ニ文學ヲ興シ、カバ、各藩爭フテ尙文ノ風盛ニ趣キ、學校ヲ創立シテ、儒臣ヲ聘用スルモノ年ヲ追フテ隆盛トナリニケリ、然レ𪜈藝備文學ノ興リシハ、今ヨリ凡百年前ニアリ、竹原ニ大儒アリ賴春水ト云ヒテ、經書歷史ニ通シタリシヲ以テ、大ニ世ニ著レタリキ、淺野侯藩校ヲ興シ、春水ヲ召シテ儒員トナセシガ、春水獨リ藩士ノ子弟ヲ陶冶セシノミナラズ

亦政治ヲ輔翼シタリキ、備後ニ在リテハ、菅茶山郷校ヲ開設シ、子弟ヲ薫陶シ、人才ヲ輩出シタリケリ、阿部侯亦誠之館ヲ興シテ藩士ノ子弟ヲ教育セシメタリキ、春水ノ子ニ山陽アリ、常ニ王室ノ尊ブベキヲ唱導シタリシカバ、天下ノ士氣ヲ振起セシムルニ至レリ、著書ハ、日本外史、日本政記等ナリ、實ニ山陽ハ、雄壯快活ノ筆ヲ遺シタリシ人ナリ、本書ニ載スル所ノ、阪井虎山、木原桑宅、門田朴齋、五弓雪窓、等ノ儒家相繼ギテ、子弟ヲ教育シ、人才ヲ輩出シタリシ、功績鮮尠ナカラズ、明治五年小學校令一タビ出シヨリ、山村避邑至ル所學校ノ設アラザルハナク、牧牛ノ童、紡絲ノ女、亦文學ヲ知ラザルナキニ至レリ、今ヤ師範學校中學校、及各種ノ學校、完備セリ、寔ニ明

治聖代ノ鴻恩ナリト謂フベシ、豈盛ナラズヤ、

附錄

今代

允文允武ナル、今上天皇陛下、御即位ノ翌年、(明治元年)鳳輦ヲ江戸ニ移シテ之ニ都シ、江戸ヲ改メテ東京ト名ヅケ給ヒキ、

明治四年諸藩主、土地人民ヲ奉還シテヨリ、郡縣ノ政治ト改メラレキ、是レヨリ先キ、士族ハ甚タ尊大ニシテ平民ヲ見ルコト、犬馬ノ如クセシガ、當時始メテ士族平民同等ノ權ヲ有スルニ至レリ、寔ニ明治政府ノ恩澤ナリト謂フベキナリ、今上天皇陛下、西洋諸國ト交ヲ結ヒ給ヘリシヨリ、學問藝術ハ彼ノ長ズル所ヲ取リテ之ヲ

用井、以テ吾國ノ利益ヲ興シ給ヘリ、是ヲ以テ、今ヤ文物粲然トシテ觀ル可キアリ、抑下ハ小學校ヨリ中師範學校及各種學校備レリ、上ハ大中學校ノ完備セルアリ、且陸ニ郵便電信及鐵道ノ設ケアリ、海ニ漁船航海ノ便アリ、其他西洋諸國トノ交易、甚盛ニシテ、國家ノ利益豈尠ナカランヤ、是皆其初メ摸範ヲ彼ヨリ取リテ以テ今日アルニ至リシナラン、然レトモ、今ヤ泰西諸邦ノ人皆舌ヲ卷キテ我國文明進歩ノ發達ノ速カナリシニ驚カザルハナシ、況ヤ海陸軍ノ兵備完全セルヲヤ、此頃清國征伐ノ事起ルヤ、我陸海軍ノ勝報ニ接スルコト屢ナリ、是ニ由ラズンバ何ソ此如キニ至ラン、西洋諸州廣シト雖

モ羨ムニ足ラズ、陸海軍完備セルモ亦羨ムニ足ラズ、我神州ノ光輝ヲシテ、地球上ニ赫カシメ、以テ國家ヲ富岳ノ安キニ置キ、天壤無究ノ皇統ヲ補翼セント欲セハ、上下ノ臣民、誠忠以テ天皇陛下ニ報イ奉リ、勤儉以テ國家ヲ維持スルノ念、一日モ忘ル可カラズ、大日本帝國臣民タルモノ、豈猛省セザル可ケンヤ、

明治二十七年十一月十四日印刷
明治二十七年十一月二十日發行

定價金十二錢

著作者　大戸直胤
廣島縣賀茂郡西條町六十五番邸

發行者　鈴木常松
廣島縣廣島市鹽屋町八番邸

發賣所　積善館支店
廣島縣廣島市鹽屋町八番邸

印刷者　橘磯吉
東京市京橋區弓町二十三番地

印刷所　三協合資會社
東京市京橋區弓町二十四番地

版權所有

特46
30

藝備史談

国立国会図書館

025838-000-5

特46-30

芸備史談

大戸　直胤／編

M27

ADC-3391